

第1回宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画策定審議会 議事録	
日 時	令和6年6月7日(金)午後2時15分から
場 所	宗像市役所西館2階 202会議室
委 員	池添昌幸 委員(会長)、後藤明 委員(副会長)、 小部彰一郎 委員、松本奈津美 委員、目原凧斗 委員
出席者	宗像市アセットマネジメント推進課 中山課長 角脇係長(アセットマネジメント推進係) 小田主任主事(アセットマネジメント推進係)
内 容	<p>1 開会 2 議事録作成方法の確認 3 諮問 4 議事「宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画」の見直しについて 5 今後のスケジュールについて</p> <p>(1) 開会 — 会長より、委員5名の出席により、本審議会開催の定足数に達している旨の報告 —</p> <p>(2) 議事録作成方法の確認 事務局：本審議会の議事録の作成を要点筆記としたい。また、署名委員として、各回2名の委員に議事録に署名いただき、公開したい。 全員：異議なし。 事務局：署名委員は、会長ともう1名、委員名簿に記載の上から順にお願いしたい。ついては、今回は池添会長と後藤副会長に、次回は池添会長と小部委員といった形でお願いしたい。 全員：異議なし。</p> <p>(3) 諮問 — アセットマネジメント推進課長より、池添会長へ手交 —</p>

(4) 議事

— 資料1について事務局から説明 —

小部委員：資料1の「公共施設別の更新・改修計画」は、現在の宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画（以下、アセット計画という。）での公共施設の保有総量を計画期間内で10%程度削減するという目標と整合性が取れているのか。

事務局：現時点で、10%削減の数値目標と計画上の用途廃止の数値は紐づいていない。更新・改修計画は、目標耐用年数に応じた更新・改修・解体の時期の目安を示したものとなっている。

池添会長：現在のアセット計画における更新・改修計画は、10%削減を反映しているのではなく、個別の建物の状況について、アセット計画の進捗管理の中で確認しながら進めていくものと認識している。

目原委員：人口減少等で公共施設の規模の縮小や他施設との複合化を検討しているとのことだが、その場合、公共施設の総面積は減っていくものだと思うが、前回のアセット計画の見直し時から、公共施設的面積が増えているのはどういった経緯なのか。

事務局：建物の解体を進めているものもあるが、前回のアセット計画の見直し後に、市として水産加工物の流通を促進するために、鐘崎漁港に約2,400㎡の高度衛生管理型荷捌き所を整備しており、差し引きの結果、微増となっている。

小部委員：個別の施設計画に委ねて、その結果を積み上げるような成り行きの計画では意味がない。施設のハード部分も見なければならないが、一番重要なのは財政負担を削減するというところである。面積の削減目標には根拠を持ち、財政面での圧縮をどこまですべきかどう再配置の観点が必要になる。

事務局：公共施設の約半分が学校であり、学校の更新時に集約化や複合化による面積の削減及び財政負担の削減を実行していく必要があるが、まだ更新時期に達していないこともあり、数字としては表れていない。今後、学校基本計画の策定と併せて、具体的にどのように減らしていくかを示しながら目標を再設定したい。

池添会長：現在のアセット計画でも、公共施設の分類別に方針が定められているので、今回の見直しで、残り20年でどのように実行していくのか示したほうが良い。

後藤副会長：今後の更新・改修費用の見込みなどが2025年から20年間の累計となっているため、これまでのアセット計画で算出していた見込みと比べることができない。

事務局：それらの比較については、現在、分析している最中である。整次第、改めて説明させてもらいたい。

池添会長：包括管理によって、どのように今後のアセット計画に活かされるのか。

事務局：包括管理によって、予防保全をより深化させていくことができる。建物を延命化することで、改修に係る費用を平準化したり、ライフサイクルコストで考えると全体としては減少したりするという示しながら、アセット計画の見直しを進めていきたい。

目原委員：学校の複合化という話があったが、学校と複合化する他の公共施設とはどのようなものがあるのか。

事務局：既に学校の敷地内に建っている学童保育施設やコミュニティ・センター等の地域の方が活用される施設が想定されるが、それ以外の施設との複合化の可能性も検討していく。

後藤副会長：公共施設の保有総量の圧縮目標を再設定することだが、官民連携などで収益を得たり、改修の費用が確保できたりするのであれば面積を10%減らす必要はないと思うため、その目標の数値に固執しすぎないようにする必要があると考える。

小部委員：公共施設の再配置をするために優先順位をつけるといった検討はないのか。

事務局：今回の見直しでは、包括管理の導入による維持管理の観点に主眼を置いている。再配置についても重要な観点であるため、見直し後も、別途、公共施設の利用状況や市民ニーズの数値化などにより、再配置の計画を検討していきたい。

(5) 今後のスケジュールについて

— 資料2について事務局から事務局説明 —

(6) 閉会